

IFAF JUNIOR WORLD CHAMPIONSHIP 2009 OFFENSE

JWC 日本代表
OFFENSE COACH

コーディネーター: 須永 恭通 (日本大学)

OLコーチ: 米倉 輝 (立命館大学), 西村 忍 (東洋大学)

WRコーチ: 板井 征人 (関西大学)

RBコーチ: 岸野 公彦 (立命館大学)

- カナダに勝って決勝戦でアメリカと対戦する



- 個々の力では圧倒的に不利であるので、戦術で上回ることが絶対条件
- カナダ対ニュージーランドのスкауティングが重要である
- スピードのあるRBを中心にボールを持たせる
(PASS/ RUN/ SPECIAL)
- 将来、日本のフットボールの中心になっていく選手達なので、トリックプレーの多用や、卑怯な戦術は使わない
- 得点力を上げる
- (過去の対カナダ戦の日本オフェンスを見ても最高で12得点しか取れていない)

代表チームのオフェンスユニットとして

1: フィールドを広く使い走り勝つ

サイズでふた回り以上の差があるであろう相手に勝つためには、運動量の勝負に持ち込み、消耗戦に引きずり込む。そのためには、フィールドいっぱいに攻撃を仕掛け、ディフェンスを走り回らせるように仕向ける。

2: 自分の役割を確実に遂行する

1対1のパワーとスピードでかなわぬ相手に対して、我々が優位に立つためには、精密なチームプレーの遂行が絶対条件である。プレーを完璧に理解し、自分の役割を正確に遂行するとともに、クイックネスと技術を駆使して運動能力の差を補い、総合力で上回る。アサイメントミス、スナップ前の反則、落球、ファンブル、インターセプト等のメンタルエラーをなくすことも重要である。

3: 勇敢にプレーする

今まで対戦したことがないサイズとパワーに対して、恐怖心を捨てて、毎プレー100%の力を出し切らなければならない。戦術、技術、クイックネスだけでなく、時には根性で相手を倒しにいく気概が必要である。

オフenseはどのように戦うか？

- 1: オーソドックスな4-3ディフェンス
(過去のVTRから)
- 2: カナディアンフットボールをプレーしている
- 3: 最近の情報はカナディアンフットボールのVTRのみ
⇒対オプシヨンのアサイメントが苦手では？

カナダディフェンスについての事前情報

- 1: 能力の高い3人のRBを中心に攻める
 - (RUN/ PASS/ WILD CAT/ SPECIAL)
- 2: ランプレーの力勝負は極力避ける
 - ◆ オプションプレー
(INSIDE ZONE, SPEED OPTION, ZONE OPTION, SHOVEL OPTION)
 - ◆ オープンプレー (OUTSIDE ZONE, JET)
 - ◆ ドロー (DRAW, PP HAND OFF)
- 3: PPは長くもたないので、パスはタイミングの早いパスとロールアウトを多用
- 4: 10playのロングドライブは難しいので、決定力のあるロングパスとスペシャルプレーを要所で使う
- 5: RED ZONE、GLの力勝負に持ち込みたくないなので、敵陣に入ったら積極的にTDを狙っていく

OFFENSE CONCEPT

- 1: INSIDE ZONE (5plays⇒0play)
- 2: T-PULL INSIDE ZONE (3plays⇒3plays)
- 3: ZONE OPTION (2plays⇒3plays)
- 4: SHOVEL OPTION (3plays⇒2plays)
- 5: OUTSIDE ZONE (2plays⇒0play)
- 6: JET (4plays⇒3plays)
- 7: DRAW (3plays⇒3plays)
- 8: PP HAND OFF (2plays⇒2plays)
- 9: SET BACK (2plays⇒8plays)
- 10: SPECIAL PLAY (4plays⇒4plays)

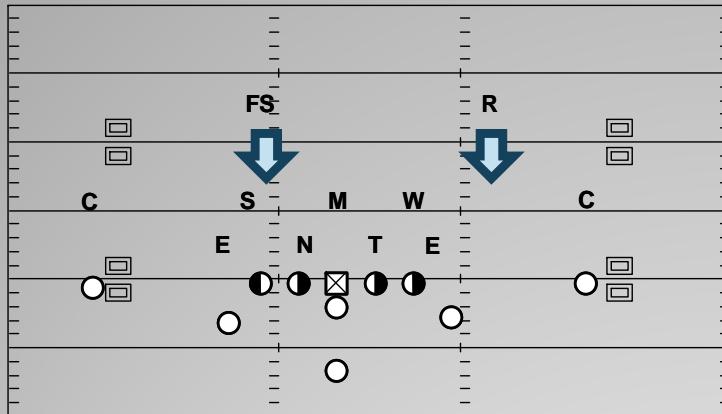
BASE PLAY (RUN)

- 1: DROP BACK PASS (50) (9plays⇒11plays)
- 2: DROP BACK PASS (60) (3plays⇒3plays)
- 3: DROP BACK PASS (70) (4plays⇒5plays)
- 4: QUICK PASS (90) (3plays⇒4plays)
- 5: ROLL OUT PASS (4plays⇒5plays)
- 6: BOOT (2plays⇒2plays)
- 7: SCREEN (8plays⇒5plays)
- 8: SPECIAL (3plays⇒4plays)

BASE PLAY (PASS)

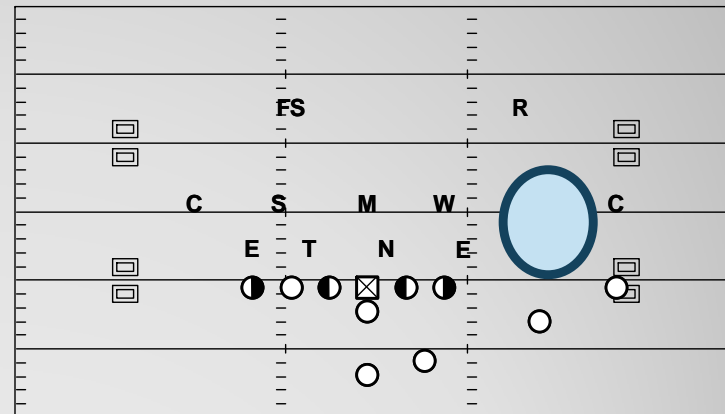
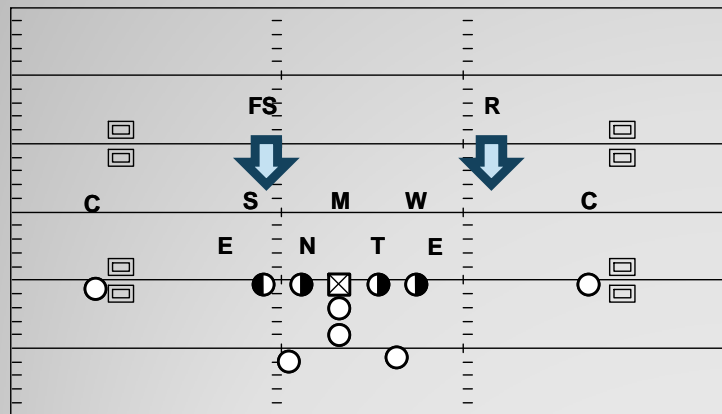
- 3人のRBが全員負傷(出場不可能、限定起用でヒットされたらだめ、全力で走れない)
- QBも一人負傷し、出場不可能
- パスと決定力のあるプレーで序盤から仕掛ける

ドイツ戦後の修正点



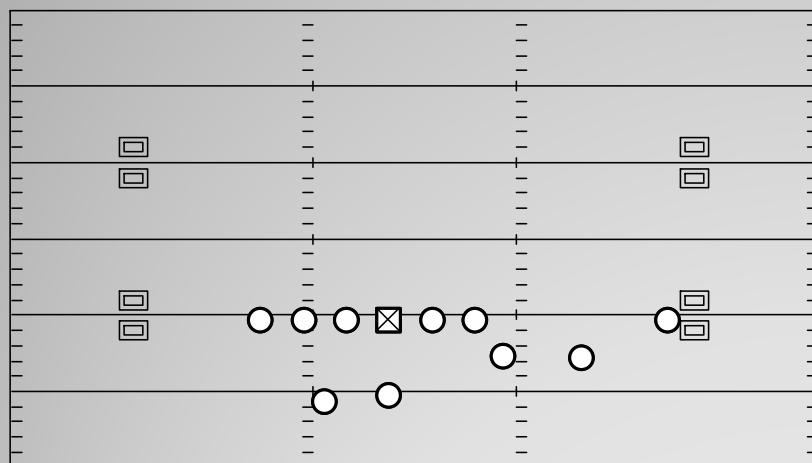
1: SFのRUN PLAYに対する
反応が速い

2: TWIN SETに対して、カ
バーしていないエリアがある

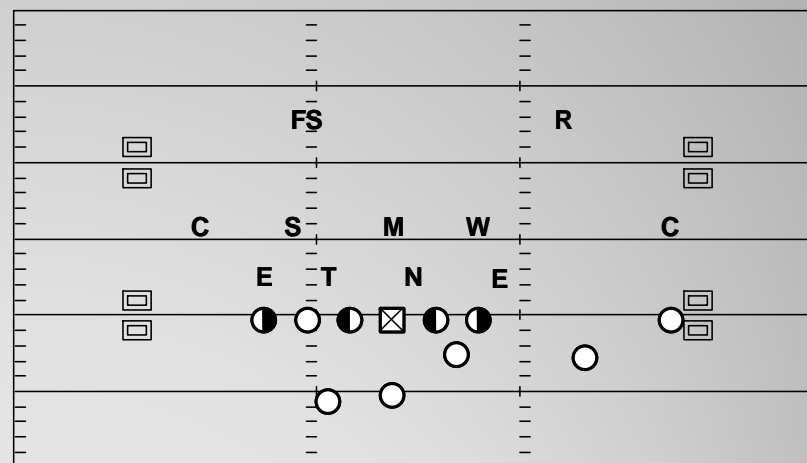


カナダDefense 対ニュージーランドOffense

V - FORMATION



VAIO - FORMATION



カナダ戦 フォーメーション

	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本	7	7	7	14	35
カナダ	7	14	7	10	38

	日本	カナダ
1ST DOWNS	17	20
RUSHING YARD	57	174
Rush 回数	17	35
Rush 平均yard	3.4	5.0
Rushing TDs	1	2
PASSING YARD	319	287
試投数	33	33
成功数	23	21
Int.	0	0
Pass 成功率	69.7%	63.6%
Pass 平均yard/(試投数)	9.7	8.7
Pass 平均yard/(成功数)	13.9	13.7
Passing TDs	4	3
TOTAL OFFENSE YARDS	376	461
Total Offense Play 回数	50	68
Offense Play 平均yard	7.5	6.8
Fumbles 回数	2	1
Fumbles 喪失数	0	0
反則 回数	1	9
反則 罰退yard	15	85
3rd Down 回数	9	13
成功	5	8
4th Down 回数	0	1
成功	0	0
Red Zone 回数	4	2
Red Zone 得点回数	4	2
被Sack 回数	2	0
被Sack 喪失yard	18	0
Possession Time	19:01	28:59

カナダ戦 オフェンス スタッツ

- 技術と俊敏性
- 正確なアサイメントの遂行
- パスユニット⇒QB、WR、PP
- 反則の少なさ
- メンタルエラーの少なさ
- チームワーク

ドイツ、カナダの選手上まわることができたポイントは？

- 怪我をしない身体
- QB、WR、RBのフィジカルアップ
- ⇒U-19のラインのサイズ、パワーはテクニクとスキームで対抗できる部分が大いだが、ボールキャリアの身体の強さは圧倒的に弱い
- ボールコントロールの徹底
- ⇒ディフェンスの負担を軽減する

今後の課題

- ご静聴ありがとうございました